

“公務員らしくない” が面白い。

——九州の未来を動かす、「地方の国家公務員」 業務で培うスキルとは？

「シゴト図鑑～仕事内容・身につくスキル&必要なスキル～」

Q : 現在の職業をひとことで表すと？

また仕事内容や目標指標を教えてください。

A : 公務員らしくない公務員？

他の記事でも似た表現がありました。 **「地方の国家公務員」** と表現できるかと思えます。

私が勤務している「九州経済産業局」は、経済・産業の発展、鉱物資源やエネルギーの安定・効率的な供給の確保に向け、経済産業省の施策を九州で展開するブロック機関です。国家公務員（一般職）として採用されていて、JR博多駅近くの合同庁舎で仕事をしています。ちなみに、大学では生命化学を専攻しており（医療材料や薬剤などの分野を研究していました！）、採用区分は **技官（化学）** です。技官として入省できる省庁は限られますが、当局（当省）は採用区分にとらわれず、幅広い業務に取り組める点が私の希望に合っていました。



入省1年目は地域経済部の部内取りまとめをする課で調整業務を担当し、2年目には産業人材施策を扱う部署に異動。3年目の現在は資源エネルギー環境部で「鉱業法」（鉱物資源の安定供給のために「鉱業権」という権利などを定めた法律）の審査や許認可の業務に従事しています。「経済産業施策」と一口に言っても、当局が所管する業務の分野は広いですね。私は様々な分野の仕事に携わることができる点に面白さを感じて当局を志望しました。

目標指標としては、当局の組織理念に「未来につなぐ、活力ある九州の実現」を掲げています。「ワクワクする九州を創ろう」というフレーズもあって、局内の雰囲気もよく表している言葉だなと思います。公務員といえば年功序列のイメージが強いかもしれませんが、当局は風通しが良く、若手職員も積極的に業務に関わる機会が多くあります。また、ビジネスカジュアルな服装の方も比較的多く、働き方の自由度も高い方だと思います。そういう意味では「公務員らしくない公務員」とも言えるかもしれません。

Q : この職業で最も楽しいと感じる瞬間と大変な瞬間はいつですか？

A : 九州各県を出張！時には海外へ！？

当局では若手のうちから裁量ある仕事を任せてもらえます。産業人材施策の部署にいた去年は出張が多く、セミナー参加や企業訪問、自治体などの行政機関訪問などで九州各県を回りました（経済産業局は、九州では福岡市にしか庁舎がありません。出張で遠方に行く大変さはありますが、九州各地をあちこち転勤…ということはありません。一定期間の自治体・関係機関への出向をすることはあります。）。大分県や鹿児島県には1人で出張に行ったこともあります。

訪問先の情報収集、当局として提供できる有益な情報の整理、訪問先とのアポイント調整などを自ら

進め、出張に関する一連の業務を責任も

って遂行することに、やりがいと充実感を感じました。

また、国内出張ほど多くはありませんが海外出

張の機会もあり、私は3月になんと先輩と2人で

シンガポールへ…！！HR (Human Re

sources : 人的資源や人事を指す用語です)の大規模なカンファレンスに参加し、人的資本経営や企業人事を巡るテクノロジーの動向について調査しました。帰国後は局内だけでなく、経済産業省本省



(東京の霞が関にあって、民間企業でいう本社のようなイメージです。)の関係先にも内容を報告・共有しました。若手のうちから海外出張に積極的に参加させていただいた経験は、非常に勉強になり、大きな刺激を受けました。

一方で、業務に関わる知識の習得はとても大変です…。私の場合はいずれも1年ごとの早めの異動でしたが、当局では平均して2～3年ごとに部署が変わります。全く知らない分野を担当することもあるため、その時には一から学ぶ必要があります。関係者にはその道のプロも多く、そういった方々と対峙する私たちは少しでもプロと同じレベルで話せる状態に近づかなければなりません。

今後のキャリアでも異動は続いていきますので、常に学び続ける姿勢が重要だと思っています。とはいえ、これだけ幅の広い業務に携わることができることはとても大きなやりがいがあり、好奇心旺盛な私としては、異動が楽しみな部分もあります！

Q : この職業で身につくスキル&あると良いスキルは何ですか？

A : 「調整力」と「日本語力」

身につくスキルの一つは「調整力」です。コミュニケーション能力とも近いですね。部署の垣根を越えて横断的に連携して業務に取り組むことも多々あります。企業の方など外部との多様な調整も多いので、たくさんの方と対面や電話、メール、チャットなどでやり取りをする中で自然と鍛えられました。少し先の予定を見通したり、かかる時間や必要な作業から逆算して段取りをつけたり、というスキルも含まれるかなと思います。

もう一つも少し抽象的な表現になってしまいますが「日本語力」もとても大事です。改めて日本語力というと、一見初歩的に思えるかもしれませんが、仕事をする上で根幹にある間違いなく必要不可欠なスキルだと思います。ここでいう日本語力とは、読解力・語彙力・文章力などの様々な能力をひっくるめて「日本語力」とします。

現在、入省して3年目になりますが、言葉の言い回しや選び方の大切さを日々実感しています。内部・外部向けの資料など、図やレイアウトなどで工夫をしたとしても、最終的には文章で説明することになります。自分が作成した資料を上司に見せると、文章の全体がガラッと変わることもしばしば。。。でも、やはり上司が指摘してくれた内容の方が良いというのはすぐに分かりますよね。さらに、それを説明するときどのように伝えるかなど、文章表現や説明方法などのすべてにおいてまだまだ未熟だと痛感しています。

また、行政機関ですので法律を読むことも日常的です。私は学生時代にはほとんど触れていなかった分野なので、いまだに苦勞しています。こうして振り返ると社会人になってからも日々勉強ですね。ゆくゆくは「政策立案力」なども身につけていきたいですね。大学で学んだ分野とは異なる業務も多いですが、私は入省できて良かったな、と日々充実感を持って業務に取り組んでいます。



ながよし

経歴：2024年に新卒で経済産業省 九州経済産業局へ入省。

※キャリアサイト「My CareerStudy」に掲載していた記事を再掲しています。